

令和 7 年度 結果の分析及び今後の改善策

(中間 (最終))

蒲刈中学校区 校番31 学校名 呉市立蒲刈小学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	学んだことを実際の社会や生活で生きて働かせ、自分の意見をもち、自分の言葉で表現できる児童生徒の育成	知識及び技能の確実な定着 【貴】自己表現できる力の育成	<p>結果: 国・算テスト平均得点率80%以上の児童の割合: 90% 標準学力調査の評定3以上の児童の割合: 79%</p> <p>分析: ○「キュビナの効果的な活用」・「つまずきの見取り・個に応じた学習」等⇒既習事項の定着 ○「全国学力テストでの課題分析・系統的に取り組むべき課題の共有」⇒授業改善 ▲キュビナ基本の問題に取り組む時間不足。 ▲つまずきの見取り・個に応じた学習が十分でない。 ▲習熟・苦手箇所把握の時間の確保が難しい。</p> <p>結果: 児童アンケート「理由を明らかにして、相手を意識して…」98%</p> <p>○「黒板前に出て説明する機会の設定」・「聴く側の態度向上」・「図や表などを示す等多様な説明方法」⇒相手意識をもった説明(表現力)の向上・意欲の向上 ○「学びのステップ」・話型を低学年から導入 ▲相手へ伝えようとするが、相手意識は十分ではない ▲グループの話合いの際、ノートを読むだけになる ▲「例えば～」等、事例を踏まえ、相手意識につながる説明方法の指導。</p>	<p>○習熟のための練習や苦手箇所把握のための練習時間の確保ということで、昨年度まで取り組んでいた「課外学習」を検討する。</p> <p>○家庭学習の精査・見直しを行う。</p> <p>○行事の精選や効率化などを通して、児童とかかわる時間確保につなげる。</p> <p>○振り返りの質を上げるために、拠り所となる板書を充実させたり、その視点を意識しながら授業を進めていく。</p> <p>○各学年に応じて、子どもの力を引き出し、課題解決のするために必要な「助言や価値づけ、切り返し」をする能力(≒ファシリテーション力)を向上させる。</p> <p>○教師・児童ともに授業を見合う機会を引き続き確保する。</p>
**	困難な状況にも臆することなく挑もうとする児童生徒の育成	【貴】自己肯定感や挑戦する力の向上	<p>結果: 挑戦・自己肯定感に関する児童アンケート100%</p> <p>○学習発表会の発表内容が、日々の学習と密接に結びつく⇒学習成果や頑張りが発表に直接的に反映⇒自己肯定感の醸成</p> <p>○「教職員の肯定的評価・児童相互の肯定的評価」とそれを価値づける声掛け、「児童自身に任せ、挑戦する場」の設定⇒新しいことに挑戦する意欲</p> <p>結果: 避難場所や避難方法等の児童アンケート100%</p> <p>○定期的・継続的な避難訓練⇒防災や安全に関わる知識・技能が定着 ○小中合同＋自衛隊＋保護者・地域の方々による活動⇒防災・安全に関するネットワーク構築に近づき⇒自然災害への当事者意識向上 ○総合的な学習の時間、教科等と特別活動、それぞれで学んだことを活かすことで、より「防災に係る知識・技能を活用し、災害時にも対応できる思考力・判断力」を育成することができた。</p>	<p>○今後も児童が挑戦する機会を設定し、成功体験や失敗体験を味わわせる。それらのもつ価値を教職員間で共有したうえで、引き続き、日々の授業で学習リーダーの経験を積み重ねさせ、児童自身が「自分たちで主体的に学ぶことができている」と感じられるように働きかけていく。</p> <p>○児童生徒が多様な関連団体とのネットワーク構築し、保護者・地域の方も一緒に自然災害への当事者意識(危機意識)が高まる避難訓練を行う⇒自他の命を考える(＝自己の生き方を考える)機会とする。</p> <p>○「教科横断的な学習」や「特別活動と往還する教科学習等」により、生きて働く知識・技能や災害に対応できる思考力・判断力を育成する。</p>
*	安心と安全な教育環境づくり	働き方改革の推進 いじめ防止の徹底	<p>結果: 時間外勤務が月45時間を超えない教職員の割合100%</p> <p>○業務の精査の促進[校務分掌見直し、職員室等のレイアウト変更、下校時刻の変更等]により、時間と空間を有効に活用する。</p> <p>結果: アンケート「日々の業務の中で充実感を得られていると感じている」100%</p> <p>○情報共有や連携・協働する教職員集団の構築を図る。 ○「心理的安全性とコミュニケーション」とや「日常的な協働とサポート」を大切に等して同僚性を向上する。</p> <p>結果: いじめ防止に係る研修等を学期に1回以上実施・100%</p> <p>○毎週末に「暮会」をもったり、必要に応じた臨時職員集会を設けたりして、情報共有を行うことで、児童理解の場を設定し、生徒指導の充実を図ることができた。 ○いじめ防止に係る多様な研修資料を活用して研修を実施できた。</p>	<p>○今後も、時間と空間を有効に活用するために、新たな業務の精査の促進を図る。小さな気付きや閃きを行動に移し、「挑戦・協働」するよりよい教職員集団を構築する。</p> <p>○オープンな雰囲気づくり: 失敗や悩みを打ち明けられる安心感のある職場環境を醸成する。 ○相手の立場を尊重する。教職員同士、互いの実践から学び合う。</p> <p>○児童理解について、多様な研修等を通して学んだことを教職員と共有しながら、互いの実践に活かす。 ○いじめに係る専門的な知見や新たな情報を取り入れ、児童の願いや思いを活かした学級・学校づくりを進める。</p>